

個性という言葉を聞く

と、中学一年生のころの自分を思い出す。そのころの私は、何事も「こうあるべきだ。こうしなけばならない。」という思いが強くて、周りの人としてしっかりと向き合って議論することもできずに、周囲と違う自分に随分悩んでいた。

自分とは違う個性の人や集団と向き合い、その違いを理解し協働するにはどうすればよかつたのだろう。

日本の社会では、自分の考え方や生き方など、自分らしさはとても大切なことだと知っていても、多数派の意見に合わせてしまう「同調圧力」が強いていわれている。又、少数派の意見や行動は変わっていると受け止めら

れることも多い。

専門家によると日本人は、自らの意見や考えを表明し、議論し合って互いを理解し合うのが苦手な国民性だという。昔から大切にされてきた和を尊び衝突を避ける「和の文化」と、日本古来の農業を中心とした村社会の中で秩序を重んじてきた歴史によるものだから、私には、この日本人の和の文化と秩序を重んじる国民性は世界に誇る素晴らしいものだと思う。

### 「個性や違いに 向き合うこと」

淡路市教育長 山本 哲也

業を中心とした村社会の中で秩序を重んじてきた歴史によるものだから、私には、この日本人の和の文化と秩序を重んじる国民性は世界に誇る素晴らしいものだと思う。

今、考え方の違う人々としてしっかりと向き合い、議論をしながらお互いの理解を図ることの重要性が増している。そして、

様々な立場の人が折り合いをつけながら物事を進めて行くことが、社会の発展に欠かせない。

これからは、個性の違いを別の見方で受け止め、議論し合い分り合つて力を合わせていくことが何よりも大切だ。

自分とは違う「その人らしさ」を肯定的に捉え直し、向き合うことができていたなら、中学一年生の私も悩まず、集団の中で力を発揮できていたのではないかと思う。

お互いの個性を尊重し合うことのできる集団は、強みを発揮し合うことで素晴らしいことを成し遂げるチームと成り得る。これからの淡路市は、全ての市民が互いの個性を受け入れ、分り合いながら、誰もが力を発揮できる社会でありたい。

## 皆さんのおたより

● 後期高齢者になってから身体障害者（難聴）となり、人との会話が不自由となり、孤独に自然となっていくます。差別には関係なく自分のなかに閉じこもってしまいます。頑張つて健康に気をつけながら生活しています。（90代）

● 社会福祉協議会でお仕事をされている人と接する機会があります。仕事の内容が多岐にわたり、細かな取り組みをされています。そのお陰で私たちは、悩み事や福祉に関する相談をすることが出来ます。これからもよろしくお願いします。（60代）

● 学校紹介で「いいところ見つけ」をしていることを知りました。人のよくないところを見て指摘していやな気持ちにさせるより、いいところを見つけて心を温かくすることを中心掛けたいと思います。自分のいいところもたくさん見つけると、もっと素敵な自分になれるかな。（50代）

● 人権尊重ポスター 小学校低学年の部 みんな大すき、みんな友だち、えがおいっぱい、ありがとう。世界をえがおにする。どれも、楽しく、見るだけでこちらもえがおになれる作品でした。（70代）

